

第1回
四日市NPOプレゼンテーション大会
&
政策・事業構築事業

防災一座
代表 松野 博

ある避難所 「明日は我が身」



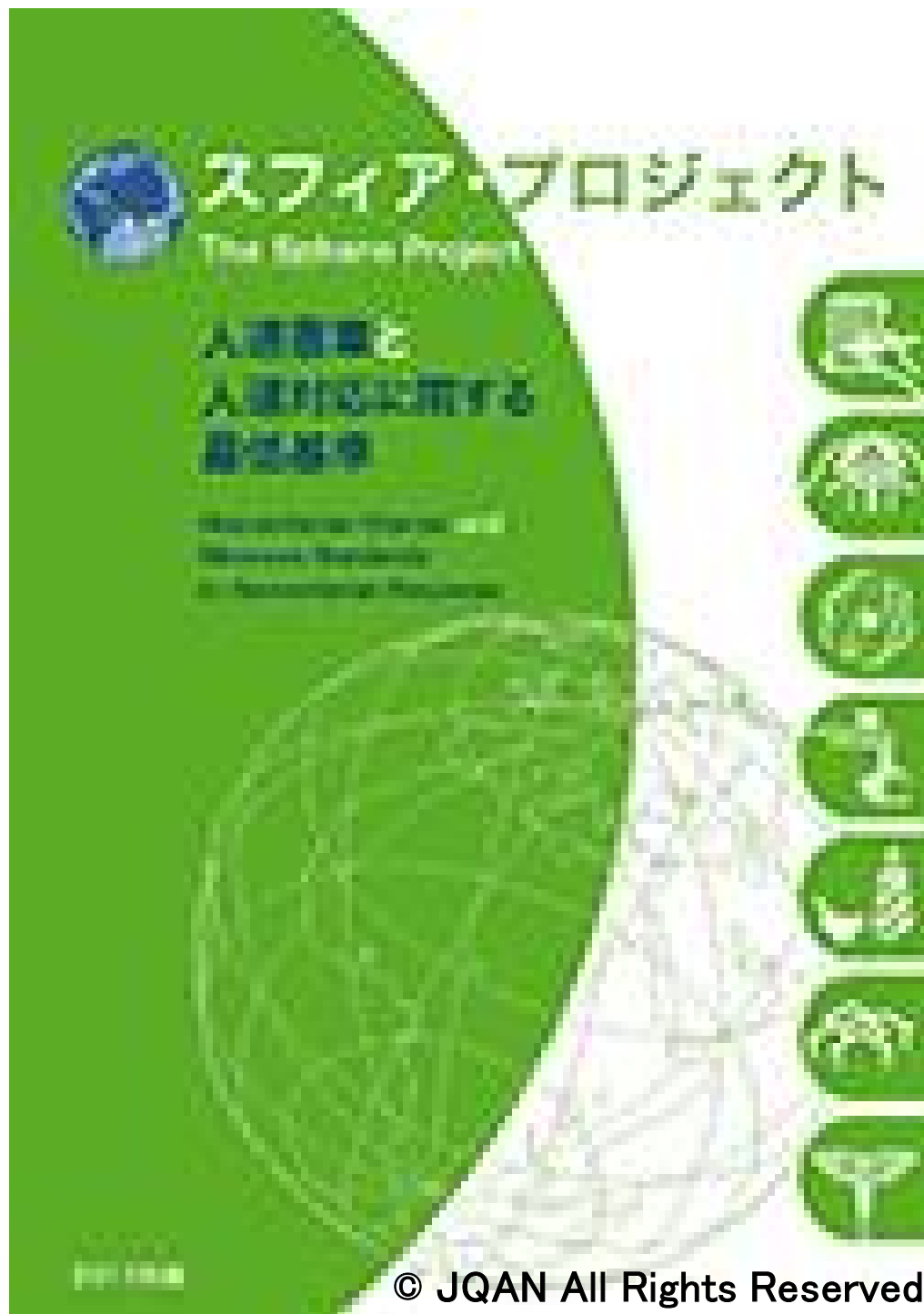
神戸市震災復興記録
神戸市教育委員会より



—被災したあなたに
温かいごはんを届けたい—

そんな時
僕なら温かいものが食べたいから
それは当たり前のことだから

お互いさまをカタチに。



命を守る “スフィア基準”

人道と緊急支援の
国際基準
(最低限の基準)

例えば
テクニカルな目安；

- ・避難所のスペースは
1人あたり最低3.5平方メートル
 - ・トイレは20人に1つの割合
 - ・男性と女性の割合は 1対3
- などが最低限の目安

本質⇒柔軟に、できるかぎりの
対応と説明責任
悪影響を評価して被害を最小化
する緩和措置をとること



たとえば、イタリアの取り組み(NHK) 環境整備

 イタリアの取り組み 72時間以内に設置



トイレ



キッチン



ベッド



(避難所・避難生活学会)

イタリアの取り組み(NHK) きっかけは1980年の大地震

イタリアの取り組み

市民保護省

モノ分散備蓄



ヒト 職能ボランティア



(避難所・避難生活学会)

一般社団法人 避難所・避難生活学会
提唱

TKB48

DMAT

ディーマット：災害派遣医療チームモデル

感想

イタリア、台湾にできる：日本にもできる

～現場から～
まず知ってほしいこと

こうした考え方は
世界標準では
当たり前なんだ
人権なんだってこと

「我慢は美德」にも程度があって
～それはワガママじゃない～

もしも

国がその方向に進まなかった場合
＜地方が独自に考えて備えておくこと＞

＜ポイント＞

・超少子高齢化社会

⇒ **人が減る**、災害ボランティアも減る

・その時、自分も、行政も、**皆が被災者に**

⇒助けてもらう、外部の支援が必要(受援)

・率先市民の力

⇒ **もっと公的なカタチで**助け合いできないか

＋地方同士の支援と連携、支援を受ける仕組み

<コンセプト>

もっと“お互いさま”の関係に
だれも取り残さない
⇒災害ケースマネジメントなど

そのためのアクト～助けてもらうために～

- ① まず、積極的に助けに行く
⇒「四日市が目的地」に
つながる
もちろん地元でも

② 水(給水車)
食(炊き出し車)
トイレカー/トレーラー
はワンセット
官民協働のチームで
ポイントは
場所に届けるのではなく “人”に届ける

＋住環境
避難者と支援者テントチームも

③ 半官半民、
DMATスタイルでも
機能別消防分団スタイルでもいい
ポイントは
身分保障
必要なら条例も

市民や企業にできること

①国(県担当)の仕組みができれば
登録してね！

市の仕組みができれば
登録してね！

市民や企業にできること

②各種アルファ米や水など
今までより増やして備蓄する

⇒いざ出動！ 率先提供

⇒ローリングストックで食べる

⇒フードドライブや子ども食堂に

③寄付やボランティアで支援

行政にできること

国の仕組みができればよろしくお願いします

① 備蓄物資と保管場所などが足りないことは、関係者ならご存知のこと

② 率先市民(とNPO)の身分保障

③ 連携自治体との相互協定の強化、ネットワーク化

＋ 防災の専門職/担当官を設けませんか

皆さんのあたたかいエールを♪
～ご清聴ありがとうございます～



© Bousai-Ichiza